

Title	編集後記
Sub Title	
Author	持丸
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.1 (1964. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640101-0104

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

「お父ちゃん安らかに眠ってください」大惨事のあともなまなましい、三川鉱ベルト斜坑の入口におかれた花束には、こんなふだがつけられていた。

科学的にも、技術的にもすでに解決されていたという炭塵爆発で、四百五十数名の犠牲者をだすにいたった原因はなんであったのか。「炭塵の清掃は行われていず、切羽の撒水用シャワーはさびびっていた」。いったいこのようなことがあってよいものなのだろうか。たとえ会社が赤字にどのような悩んでいたとしてもゆるさるべきことではない。まして、石炭危機が叫ばれながらも、この間に出炭量が増大し、かなり大きな利潤をあげている三井鉱山での事件である。会社の責任はどこまでも追及されなければならない。

それと同時にこのような経営者の存在をゆるす社会の責任が問われなければならない。孤島の少女の一命をとりとめるために、ヘリコプターが飛び、新聞は大きな見出しで報道する。このような現代社会の人命尊重は、大量の殺人をおおいかくす手段にすぎないのだろうか。

私達社会科学を学ぶものは、このような社会のありかたを徹底的に究明しなければならないであろう。「お父ちゃん」を安らかに眠らせてあげられるかどうかは、私達社会科学者にもかかっているのではあるまいか。

(持丸)

昭和三十九年一月一日発行

◎三田学会雑誌 第五十七巻 第一号

定価 一二〇円(送料共)

編集兼
発行人

東京都港区芝三田二丁目二番地
慶應義塾経済学会

代表者 山本 登

電話三田(局)五一八一
振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者

東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
安倍 七郎

半カ年予約購読料(送料共) 七二〇円
一カ年 " " 一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所 東京都高輪局区内三田綱町一番地
慶應 通信

振替口座番号 東京一五五四九七